

# 会 議 録

(敬称略：発言は要約です)

会 議	平成25年度第3回みのかも定住自立圏構想共生ビジョン懇談会
日 時	平成26年3月18日(火) 19時から20時30分まで
場 所	美濃加茂市文化会館 3階展示室
出席者	<p>出席委員21名</p> <p>野村宗弘(美濃加茂市)、金武政博(坂祝町)、加藤 賢(川辺町)、市原正隆(富加町)、塚本吉弘(七宗町)、長島佳久(白川町)、今井政信(東白川村)、田中 強(美濃加茂市)、小西輝幸(坂祝町)、加藤孝明(川辺町)、小島一彦(富加町)、古田文英(白川町)、安江美好(東白川村)、高井俊樹(美濃加茂市)、太田悟実(坂祝町)、佐伯敏充(川辺町)、渡邊謙太郎(富加町)、吉村 研(七宗町)、牧尾 梢(八百津町)、藤井宏之(白川町)、杉田正和(東白川村)</p> <p>欠席：佐合茂樹(美濃加茂市)、安藤道弘(美濃加茂市)、柘植伴美(八百津町)、</p> <p>大矢正昭(美濃加茂市)、山田 智(美濃加茂市)、長谷川嘉彦(七宗町)、佐合重光(八百津町)</p> <p>美濃加茂市(みのかも定住自立圏推進対策本部)</p> <p>市長 藤井浩人</p> <p>市民協働部長 伊藤誠一</p> <p>市民協働部次長兼定住自立圏推進室長 渡辺久登</p> <p>市民協働部文化振興課長 小田島史佳</p> <p>健康福祉部健康課長 朝日伸久</p> <p>市民協働部定住自立圏推進室 安田智洋、井戸 伸、川上明里</p> <p>加茂郡</p> <p>坂祝町総務課 課長 三品智裕、林 伸孝</p> <p>富加町総務課企画グループ課 課長 川崎敏博、高井絢也</p> <p>川辺町企画まちづくり課 馬場啓司</p> <p>七宗町企画財政課 課長 加藤 正、塚本 誠</p> <p>八百津町総務課 課長 青山 孝平、後藤 等</p> <p>白川町経営管理課 藤井寿弘</p> <p>東白川村総務課 課長 松田 安幸、伊藤保夫</p> <p style="text-align: right;">傍聴人含む参加者合計42名</p>
議 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定住自立圏事業進捗状況について</li> <li>・みのかも定住自立圏共生ビジョンの変更について</li> <li>・第2次みのかも定住自立圏構想について(平成27年度～)</li> <li>・意見交換会</li> </ul>

渡辺室長	開会宣言
市長	<p>国の定住自立圏への取組方針は、内閣府の経済財政諮問会議において今後も力を入れていくとの宣言されており、財政措置も拡充されていくことが決定しています。本年1月には、第2次みのかも定住自立圏構想について、圏域の町村長や総務省地域自立応援課長らと意見交換を行いました。</p> <p>本日は、懇談会委員の皆さまから多くの意見をいただき、新しいビジョンについての方向性をしっかりと定めつつ、来年度で最終年を迎える第1次みのかも定住自立圏共生ビジョンについて、課題点を反省して今後につなげていきたいと思ひます。</p>
渡辺室長	<p>それでは本日の司会を、副会長の太田悟実副会長にお願いします。</p>
太田副会長	<p>あいさつ。</p> <p>次第に従って進行します。はじめに定住自立圏事業の進捗状況について、推進室より報告をお願いします。</p>
推進室	<p>資料にもとづき説明。</p> <p>資料1は、みのかも定住自立圏共生ビジョン具体的取組事業について、現時点（平成26年度見込み）での取組成果をまとめたものです。取組状況によって「○□△」で表示されており、ビジョンに掲載されていない事業は「—」の記号をつけているため、各市町村の特色がわかるようになっています。</p> <p>事業についてご不明な点は、推進室または各町村の定住自立圏担当課へお問い合わせください。</p> <p>（プロジェクターを使い、みのかも定住自立圏ホームページを紹介）</p> <p>定住自立圏への取り組みは平成21年度に美濃加茂市が中心市宣言をしてくからはじまりました。そして同年10月に坂祝町との協定をきっかけに、平成23年度にすべての加茂郡町村と協定を結び、今日に至ります。</p> <p>ビジョンは毎年見直され、さまざまな事業が生まれました。</p> <p>（事例）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エリアサービスマップ事業       <p>圏域内の医療・福祉・介護施設などが誰でもわかるように作成された情報サイト。当初は住民の利用を想定していたが、実際にはその職に従事する人々が多く活用している。</p> </li> <li>・図書館システム広域利用事業       <p>現在は坂祝町とシステムが統合され、両方の図書館で本の借用・返却処理</p> </li> </ul>

ができる。

「つながる事業」は、地域住民による自主的な取組を支援する事業で、平成23年度からはじまり、今年で3年目を迎えました。なかでも、坂祝町に拠点を置く「アグリ交流グループ」は、定住の生涯学習事業の取組によって生まれた事業です。他にも、七宗町のぼちぼちや、八百津町のフォレスト802など、各町村において地域の資源を循環する事業等があり、選考委員から高評価を得ています。

『定住自立圏』を周知するために生まれたキャラクターが「かも丸」と「かも美」です。イラストや着ぐるみの貸し出しは、年間通して圏域内外を問わずさまざまな催しで利用され、多くの人に愛されています。

このように、この5年間で生まれた事業は、さまざまな成果を生みました。詳しい情報はホームページをご覧ください。

太田副会長

それでは第5回みのかも定住自立圏共生ビジョンの変更案について、推進室から説明をお願いします。

推進室

ビジョンは毎年見直され変更してきましたが、平成26年度は第1次みのかも定住自立圏構想の最終年であり、平成27年度に向けた助走期間であるため、現事業の磨き上げにとどめ、新規事業の掲載はしないこととします。平成26年度の各事業の詳細は「みのかも定住自立圏共生ビジョン第5回変更案【3月12日版】」をご覧ください。

太田副会長

続きまして、第2次みのかも定住自立圏構想について、推進室長から説明をお願いします。

渡辺室長

これまでのビジョンは平成26年度で一区切りを迎えます。一方で、総務省から、国は今後も定住自立圏の財源を拡充して強力に進めていく方針であり、みのかも定住自立圏構想も次の段階へと昇華する形で進みます。

第2次構想では、2つの基本方針に沿って事業を進めます。

「都市圏とのつながり」

身近な都市（名古屋圏）との関わりに重点を置き、みのかも定住自立圏の情報を名古屋圏へ発信することで、人口の流入や定住を目指します。

「新しい公共」

地域のNPOや企業、民間団体などが中心となり、地域のつながりを強化します。

(詳しくは「かも丸りびんぐ第10号(2月1日号)」をご覧ください)

上記の新しい取り組みについて、現在、新ビジョンに掲載する事業を募集しています。平成27年度から事業をスタートさせるため、平成26年度中に事業を決定する必要があります。そこで、市町村からの「提案事業概要調書」の提出期限を8月末に設定し、9月のビジョン懇談会にてプレゼンテーションを行った後、10月には第2次ビジョン掲載事業計画案を定めたいと思います。

町村からの提案事業は、2つの基本方針を留意しつつ、美濃加茂市と1対1の関係を重視しますが、効率や効果が上がるならば美濃加茂市と複数町村であっても、可能とします。

美濃加茂市からの提案事業は、2つの基本方針を留意しつつ、圏域全体の発展につながることを条件としています。

また、これまでの事業は各課の担当者が中心となって事業を進めてきましたが、平成27年度からは、各課長が中心となって進めます(農林業など観光資源事業ならば産業振興課長が担当、医療関係の事業ならば健康課長が担当する)。町村の意見は積極的に受けとめるように準備していますので、皆さんからの提案を待ちつつ、美濃加茂市も中心市として様々な事業を提案していきます。

今回で、圏域全体のビジョン懇談会は終了しますが、皆様には今後も各市町村内でご指導・ご助言賜りますよう協力をお願いします。

太田副会長

それではこれより、各市町村内で今後のまちづくりについて意見交換の時間を取ります。

(意見交換)

それでは各市町村で発言された話を発表してください。

杉田委員  
(東白川村)

短い時間での意見交換でしたが、東白川村のPRポイントとして第一に挙げられるのは「自然」というキーワードでした。清流や空気の良さ、山の美しさや里山体験などをPRポイントとしてとらえ、これを事業にどう生かすのか話し合いました。結果、既存の旅館などと協力をして宿泊付きの里山体験事業を展開することや、この村だけではなく美濃加茂市や他の町と連携し、宿泊込みで圏域各地をまわるバスツアー事業などを展開してはどうか、という意見がありました。この意見をもとに、一つの大きな事業としてまとめたいと思います。

古田委員

白川町の春は、江戸彼岸桜がきれいです。今年もぜひ見に来ていただきたい。

<p>(白川町)</p>	<p>そうしたものを含め、白川町では公民館の地域で『宝物さがし』のようなイベント事業や、稲作地帯の黒川地区の米を研究し、全域に広めるような事業があったらよいという意見もありました。基本的に作物を作ることがメインとなるので、美濃加茂市とうまく協力し事業化したいと思います。</p>
<p>牧尾委員 (八百津町)</p>	<p>八百津町は食文化が PR ポイントなので、これを自分たちでいかに発信できるかが鍵だと思います。しかし町としての明確な PR 方法が定まっておらず、食文化を売りにする企業もそれぞれが動いて統率されていない現状です。活性化のために若者が集って協力する場を設け、企業同士が協力して統率された PR が確立できれば、という意見がでました。このたび、町の PR キャラクター（やおっち）も生まれたので、ぜひ活用したいです。また、高齢化社会に向けてバスの運行にも力を入れるとうよいです。</p> <p>本日出た意見を町内に持ち帰って、新たな PR 方法を話し合う場を作りたいと思います。</p>
<p>吉村委員 (七宗町)</p>	<p>七宗町では平成 26 年度に「七宗町版のつながる事業」を行うにあたり、その準備しているところです。自分もつながる事業団体としてつながる事業に参加していたことがあり、どういった仕組みの事業なのか理解しています。しかし、七宗町の事業として、つながる事業（七宗版）以外にもっと良い事業があるのでは、という疑問もあります。町内に持ち帰って、もう少し意見交換していきたいと思いました。</p>
<p>佐伯委員 (川辺町)</p>	<p>川辺町には、世界に発信できる大きな資源があり、これをメインに加茂地域に広げたいと思っています。昨年 4 月に川辺町の資源を調べたところ、川辺町のボート文化は、ロケーションや波の良さが世界レベルだということがわかりました。競技用の 2000 メートルコースを確保できれば、世界大会を開くことも夢ではなく、ジュニア選手権などで地域の子どもたちと世界中のボート競技者が交流できる場が作れると思います。</p>
<p>小島委員 (富加町)</p>	<p>富加町はつながる事業に参加する団体がなかなか出てこない状況で、3 月 4 日にビジョン懇談会委員と富加町の職員で、つながる事業について話し合いをしました。その結果、つながる事業の内容が富加町民にとって想像しにくいのでは、という意見があったため、4 月の広報で富加町民に親しみやすいような内容で、掲載することにしました。広報の発行前なので反応を待っている状態ですが、熱い思いのある町民が集い、同じ気持ちの人々の輪を広げたいと思います。</p>

小西委員 (坂祝町)	坂祝町では、平成27年度に意識を向け、NPOが運営する子育て支援事業に注目し、準備を進めています。現在行われている事業にファミリーサポート事業があり、それらとの連携を含め、地域の子育てに関する取り組みを大きくしていきたいとの意見が出ました。
高井委員 (美濃加茂市)	新しい定住自立圏構想に向けて、美濃加茂市は何を武器とするのか、美濃加茂市とはどういうところであるのかを都市圏に発信していくことが大切です。「名古屋事務所」は地域の良さを都市圏に伝え、同時に圏域住民の誇りを培うことができる良い方法だと思います。しかし一番大事なのは、そういった仕組み作りではなく、その根源である「熱い気持ち」だと思います。それぞれの地域の「熱い気持ち」を大切に、より特化した魅力的なものにしていきましょう。
太田副会長	皆さん、ありがとうございました。 高井委員の「熱い気持ちが大切」という発言は、まさにこれからの「みのかも定住自立圏」を作り上げる中で絶対的に必要なものだと、私も思います。 ビジョン懇談会の仕組みが変わり、今後は市町村ごとに事業提案を進めていくこととなります。本日、様々な意見が出てきましたが、ぜひこれらの意見を取り込み、今後も地域のために皆さんのご活躍を期待しておりますので、よろしくをお願いします。 それでは最後に、美濃加茂市長から一言をお願いします。
市長	想いを共有できる人がいることはとても素晴らしいことです。今回でこのメンバーでの話し合いは終了してしまいましたが、皆さんからたくさん力をいただきました。 定住の取り組みは形骸化している地域も多いときいています。それに比べるとこの圏域は、皆さんとの気持ちが共有できる素晴らしい圏域だと思います。 これから美濃加茂市は中心市として事業を進めていきますが、圏域の皆さんと一緒に、この時代を切り開きたいと思っています。そのために、結果を残す責任をしっかりと果たし、第2次共生ビジョンも進めていきたいです。 本日はご出席いただき、ありがとうございました。  (終了)